

# ..... 声 .....

## 研修生の

### 母娘二代で JCCP 研修に参加して (カザフスタン)



スベトラーナ・ツイテバヤ  
(Svetlana Tuitebayeva)  
技術規制部長  
CDB OGI  
ST-50-06  
「重質油のアップグレーディング」  
(2006年9月6日～15日)



ディナーラ・ツイテバヤ  
(Dinara Tuitebayeva)  
品質、環境&安全管理部門  
アナリスト  
KazMunayGas  
TR-18-08  
「石油製品の品質管理」  
(2009年1月13日～30日)

私、ディナーラ・ツイテバヤは、2009年1月13日から30日の間、TR-18-08「石油製品の品質管理」コースを受講し、JCCPとして初めての、母娘二代にわたる研修参加者になりました。私の母、スベトラーナ・ツイテバヤは、2006年9月6日から15日のST-50-06「重質油のアップグレーディング」コースにまた、夫も同じくTR-3-09「重質油のアップグレーディング」コースに参加しました。

JCCP ニュースに寄稿の依頼をいただいたので、この機会に、私の祖国カザフスタンの紹介と、JCCP 研修参加の感想を述べてみたいと思います。

#### 1. カザフスタンの紹介

カザフスタン共和国は、原油・天然ガスを合わせて、世界で10番目の炭化水素資源保有国です。カスピ海のカザフスタン側にある石油埋蔵量は約600億バレルに上り、また、世界で第15位の天然ガス確認埋蔵量を有しています。「石油は我が国産業の重要部門であるだけでなく、国家独立のシンボルであり、未来への希望である」とN. ナザルバエフ大統領は述べています。豊富な炭化水素資源は、「効率的な経済構築及び石油とガスのインフラ拡大」という、カザフスタンの国家戦略の基盤となっています。

我が国の最重要課題の一つは、諸外国の石油関係機関との協力関係を構築することです。生産性の飛躍的な向上は、科学的な考え方と密接に結びついてこそ実現できるものです。

日本が、カザフスタンの石油ダウンストリーム関連機関から研修生を受け入れ、我が国の研修生が、日本で石油やガスに関する技術を向上させるという両国の国際協力関係こそ、カザフスタンの目標達成の鍵なのです。社員の能力開発は、カザフスタンと日本の二国間協力関係をより発展させる最も重要な要素です。

カザフスタンのエネルギー・鉱物資源省、カズムナイガス (KazMunayGas) 及びその他のカザフスタン石油会社は、2005年から、(財)国際石油交流センター (JCCP) の研修に参加するようになり、これまで、100人以上が JCCP の研修コースを受講しています。

#### 2. 母・Ms. スベトラーナの感想

私の母、スベトラーナ・ツイテバヤもその100人のうちの一人です。母は、石油及びガス産業会社の、CDB OGI (Central Dispatching Board of Oil Gas Industry) 技術規制部門の責任者として、カザフスタンから参加した12人の研修生と共に、2006年9月6日から15日までの、「重質油のアップグレーディング」コースに参加しました。

研修内容は日本の石油産業、重質油の熱分解技術とアップグレーディング・プロセス選択、触媒分解技術、重質油の水素化プロセスなど、非常に専門的で、カザフスタン帰国後の実務に役立つ有益なものでした。

この研修の特筆すべき点は、座学で講義を受けるだけでなく、新日本石油精製(株)、日揮触媒化成工業(株)、出光興産(株)など、日本各地の石油会社・触媒メーカー・エンジニアリング会社を訪問し、実務知識を習得することができたことです。各訪問先では、丁寧に「重質油のアップグレーディング」に関する講義や説明をしてくれました。

研修の終りには、ほとんどの研修生が、「このコースは非常に興味深く有益で、高レベルのものであり、講師も有能だった」と評価していました。



出光興産(株) 愛知製油所にて



JCCP 開講式にて記念品贈呈 (2006年9月)

### 3. 娘・Ms. ディナーラの感想

私、ディナーラ・ツイテバヤは、カズムナイガス (KazMunaiGas) の品質・環境・安全 (HSE) アナリストとして、2009年1月13日から30日の間、TE-18-06「石油製品の品質管理」コースに参加しました。研修内容は、日本における品質管理・品質保証の実際、国際的な品質管理・規格標準の流れ、品質管理手法、ISO-9000・TQMの実態、環境管理、生産管理、最新のDCSシステム、オンライン分析計、ガスクロ分析計、重質油分析装置、自動分析計、などでした。このコースでは、出光興産(株)、新日本石油(株)、出光エンジニアリング(株)、清水建設(株)、横河電機(株)その他の会社を訪問させていただきました。

どの研修プログラムも良く構成されており、専門分野だけでなく、日本の様々な地域も訪問し、日本の文化や歴史を学ぶように配慮されています。実地研修先の企業文化も、日本の歴史や文化に深く根ざしていることが理解できました。

JCCP や実地研修先の皆様他の献身的な受け入れに、母と私そして夫も心より感謝し、今後の職務や人生に、この滞日経験を活かしていきたいと思っています。ありがとうございました。



新日本石油精製(株) 根岸製油所にて



JCCPにて(2009年1月)

#### TR-3-09 「重質油のアップグレーディング」(2009年4月7日～24日)



イサエフ・ガジズ (Issayev Gaziz) (Ms. ディナーラの夫)  
技術基準部門ヘッド、CDB OGI

私が参加した「重質油のアップグレーディング」コースでは、すでに日本で導入されている『プロセス テクノロジー』について詳しく講義を受け実地研修先でもそれらを確認でき、新しい技術を学ぶことができました。

2006年9月にJCCP研修を受けた義母も、2009年1月に受講した妻も、大変有意義な研修でかつ素晴らしい日本の文化にも触れることができたと思っています。家族でJCCPや日本での貴重な体験や思い出を共有でき、幸せに思っています。